

令和6年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

(1) 学習指導に当たって・・・社会で生きる学びを作る (2) 生徒指導に当たって・・・地域社会を担う市民として必要な資質の育成 (3) 地域からの学校への信頼を高めるために・・・地域とともに生徒を育てる (4) 教職員が安心して働ける環境を作るために・・・職務の基盤となるよりよい人生のために
--

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 総合学科・系列の特色を活かした教育課程の編成及び教育実践	B	総合学科として、地域との連携を図りながら、系列ごとの学びをさらに充実させていく。	B	B
	② 基礎・基本の定着とそれを土台にした学力向上	C	「わかる授業」の実践のためには基礎学力向上に向けた施策を検討していく必要がある。	C	C
学校関係者評価委員会における意見	他系列の教科を教えてほしい。5W1Hを明確にした会話を勧めてほしい。基礎的な読み、書き、計算を徹底指導してほしい。				
生徒指導	① 話を聴く態度	B	全校集会等で生徒指導部、担任や学年で全体的に話を聞く姿勢を整えた。今後も継続して行いたい。	B	B
	② 服装・頭髪	B	長期休業明けに学年ごと頭髪・服装検査を実施した。今後も保護者と協力を得ながら指導を行いたい。	B	B
	③ いじめ防止	B	今年度よりiPadを使用した学校生活アンケートを実施した。今後も早期発見・防止に努めたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	生徒の躰は家庭の協力が必要である。情報の共有に努めてほしい。教師と生徒の距離を縮めることがいじめ早期発見になるはずである。				
進路指導	① 進路指導部内における効率的・協力的な進路運営の確立	B	定数7名から6名、担任や他業務の関係で、進路指導部内での業務の分担・運営等は年々厳しくなってきた状況であるが、年次や各分掌の協力を得ながら、概ね滞りなく行事や生徒の指導を行うことができた。	B	B
	② 生徒の進路実現に向けての学習環境の整備	C	ベネッセの基礎力診断テストの結果をもとに、生徒が学び直しや発展学習などを、ICT機器を利用して学習できる働きかけは、少なからず実施（3月には講習会予定）したが、定着までには時間・改善を要する。	C	B
学校関係者評価委員会における意見	OBを含め社会人との交流の場を活用してほしい。進路指導の一部を外部委託できないものか。				
保健厚生	① 清掃活動の徹底	B	清掃監督の指導や各年次での校舎内の清掃により、おおそ達成できた。次年度は生徒の清掃意識を向上させ校内美化につなげたい。	B	B
	② 自己健康管理の意識を高める	B	生徒の自主的なマスク着用や手洗いが一定の効果を上げ、コロナ、インフルエンザでの欠席が昨年度より少ない状況である。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	校内の清掃は行き届いている。校内美化をすることでの特長をもっと強く言う。				
企画	① 「3年間を見据えた指導」をふまえ、「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の活動を見直し、地域社会から見出した課題を、教科の学習で得た知識と結び付けながら協力的にその解決策を考え、自己の進路選択の動機につなげられるような全体計画を作成する。	B	現在の総探の全体計画を見直し、令和7年度入学生からの総探の全体計画および年間指導計画（概要）を作成した。実施に向けて、評価基準や外部人材の依頼等を検討していく。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	6次化も必要だが、農業は太陽の恵みの自然産業、学問であり、漁業（水産業）、畜産業、林業も含めた内容も教えてほしい。				
総務	① 計画と準備に万全を期す	B	振り返りとその記録・保管の継続。職員数に見合う業務分担への見直し。	B	B
	② 災害に対する防災教育の強化	B	保有している拡声器が少ないので増やす。また、その使用ルールの徹底が必要。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	防災教育は自然災害が多発しており、人間重視の立場から重要項目と考える。学生が必ず通る昇降口に防災教育を掲示しては如何か。				
農場	① 学校農場の効果的な運用と安全管理及び衛生管理の徹底に努める。	C	食品製造をはじめとし、試食を伴う授業での衛生管理は徹底できていた。しかしながら、授業時間外における農場での事故（生徒が農場機器により怪我をし、救急搬送）が発生してしまった。	B	B
	② 総合学科としての農場整備に努める。	B	鹿又小学校やメロン保育園との交流、ロードレースや文化祭でのPTA活動、とらまいなど各種の行事で使用しやすい環境を整えられた。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	本校独特の「とらまい」を一層充実することを期待する。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 生徒主体の活動の充実	「とらまい」の運営において、今後は更に、各系列がその特長を生かしながら、生徒が企画運営を行い、教員側の補助を縮小し、その支援と助言にとどめる、そのような活動を展開する。生徒会活動について、生徒が自ら積極的に動く組織となるように、教員側の補助を暫時縮小し、その支援と助言のみとするように努める。
② 部活動の魅力化と再編	所属のみで活動していない生徒が増加し、多くの運動部で、団体競技が単独チームで出場できない状況となっている。部活動の意義や在り方を再考し、生徒の社会性の育成と行った観点から部活動運営について取り組む。
③ NPO団体と連携した生徒支援	生徒の相談に対して、相談件数の増加に伴い、等しく対応することが難しい状況をつくらないための方策として、「校内居場所カフェ」を設置し、生徒が「保護者や教職員以外の大人」に気軽に相談し、生徒が何を抱えているかなどを教職員が理解しやすい体制を構築する。